

第17回 日本近世の思想(1)

- | | | |
|------|---|--------|
| 1 A | 聖賢の教えにこそ道はあると考えて、僧籍を離れて儒教を研究し、徳川家康に儒学を講じた人物は誰か。 | 藤原惺窩 |
| 2 A | 藤原惺窩に師事して儒学を学び、家康につかえて江戸幕藩体制の思想的基盤を確立した人物は誰か。 | 林羅山 |
| 3 A | 天地に上下があるように、人間にも上下の秩序があることは天理であるという林羅山が説いた考えを何というか。 | 上下定分の理 |
| 4 A | 自己の内なる私利私欲をつつしみ、天理にしたがおうとする心を何というか。 | 敬 |
| 5 B | 私利私欲を離れて、天理である上下の秩序にしたがおうとする心のあり方を何というか。 | 存心持敬 |
| 6 B | 敬と義を尊ぶ倫理を説くとともに、儒教と神道を結合して垂加神道をとなえた江戸初期の思想家は誰か。 | 山崎闇斎 |
| 7 C | 松永尺五に学んだあと、徳川綱吉につかえ、多くの門人を輩出した江戸初期の儒学者は誰か。 | 木下順庵 |
| 8 C | 「信ずべきを信じ、疑うべきを疑う」という批判精神をもち、朱子学のみならず薬学や教育にまでその博学をしめした江戸中期の儒学者は誰か。 | 貝原益軒 |
| 9 A | 観念的な朱子学を批判して古学をとなえるとともに、武士の倫理的自覚と高貴な人格の形成の必要を説いた江戸前期の儒学者は誰か。 | 山鹿素行 |
| 10 A | 統治者としての武士の道徳を説いた山鹿素行の著書を何というか。 | 『聖教要録』 |
| 11 A | 主君に対する忠誠と支配者としての人格的徳性などを特徴とする、武士としての心構えや生き方を何というか。 | 武士道 |
| 12 B | 「武士道といふは、死ぬ事とみつけたり」ということばではじまる、主君への絶対的忠誠と不断の死への覚悟を説いた鍋島藩士山本常朝の著書を何というか。 | 『葉隠』 |
| 13 A | 江戸時代の安定政権の下で、農工商の上にたつ統治階級としての倫理的自覚と高潔な人格形成を求めて、山鹿素行によって説かれた武士道を何というか。 | 士道 |
| 14 A | 朱子学の説く敬を形式的であると批判し、万人に通じる道を求めて日本陽明学をおこした江戸前期の儒学者は誰か。 | 中江藤樹 |
| 15 A | 師と弟子との問答という形式を借りて、学問・道徳などについて語った中江藤樹の著書を何というか。 | 『翁問答』 |
| 16 A | 孔子が仁の根本をなすと考え、中江藤樹が万物の根源をなすとともに人倫の根本原理でもあると考えた徳目を何というか。 | 孝 |
| 17 B | 中江藤樹が人倫の根本であると考えた孝の徳の内容で、まごころをもって人に親しみ、上を敬い下をあなどらない心のあり方を何というか。 | 愛敬 |
| 18 C | 孝が実践されるときに配慮されなければならない、時期・場所・身分のことを何というか。 | 時・処・位 |
| 19 B | 宇宙の本体は善なる理とし、この理が人間の心に内在したものを陽明学では何というか。 | 良知 |
| 20 B | 礼や法は普遍的なものではなく、時期や場所や相手に応じて妥当するものであるから、聖人の心をこそ学ばねばならないと説いた陽明学者は誰か。 | 熊沢蕃山 |
| 21 A | 朱子学や陽明学などの宋学以来の解釈を排し、孔子・孟子の原典に帰ろうという、山鹿素行によってとえられた学問の立場を何というか。 | 古学 |
| 22 A | 朱子学や陽明学に満足せず、『論語』こそ最高の書物と確信して、そこに記された本来の意味を探ることを学問の基礎とした江戸中期の儒学者は誰か。 | 伊藤仁斎 |
| 23 A | 『論語』『孟子』の原典にかえてこの二書を熟読し、その本来の意味(古義)を明らかにしようとした伊藤仁斎の学問的立場を何というか。 | 古義学 |
| 24 B | 伊藤仁斎の著した『論語』の注釈書を何というか。 | 『論語古義』 |

25 B	伊藤仁斎の著した『論語』『孟子』に記された概念の解説書を何というか。	『語孟字義』
26 A	童子の問いに師が答える形式で、伊藤仁斎の思想をまとめた主著を何というか。	『童子問』
27 A	孔子の教えの根本は仁であり、その本質は愛であると説いた、仁斎の説く人倫の道の根本を何というか。	仁愛
28 A	仁愛の根底にある、自他に対していつわりをもたない純粋な心情を何というか。	誠
29 A	山鹿素行・伊藤仁斎の古学をさらに徹底させて、孔子以前の六経の原文に道を求めた江戸中期の儒学者は誰か。	荻生徂徠
30 A	孔子・孟子以前の古典に中国聖賢の道を求め、その原典を原語で理解しようとする荻生徂徠の学門を何というか。	古文辞学
31 A	古典理解の方法と天下安泰の方策を説いた、荻生徂徠の主著を何というか。	『弁道』
32 A	荻生徂徠のいう中国古代の聖人・賢者が説いた人間の道を何というか。	先王の道
33 B	荻生徂徠のいう古代の聖賢が求めた、天下の民に平安をもたらす道のことを何というか。	安天下の道
34 B	古代の聖賢の道の具体的な方策で、世を治め民の生活を救うことを何というか。	經世済民
35 B	經世済民の方策のさらに具体的な政策で、規範と音楽とによる教化と、刑罰と法令による民心の安定をはかる政策を総称して何というか。	礼楽刑政